

参 考 資 料

(1) 事前復興まちづくり模擬訓練が 1 冊資料 (参考)

事前復興まちづくり模擬訓練
訓練 1 : まち歩き
概要説明

平成 年 月 日(曜日) 時～
場所：

【ナレーション例】

これから事前復興まちづくり模擬訓練 訓練 1 : まち歩きの概要説明を行ないます。

事前復興まちづくり模擬訓練
訓練 1 : まち歩き
作成例
概要説明

平成〇〇年 〇月 〇日(〇曜日) 〇時～
場所：〇〇公民館

目 次

- 1. 地震・津波への備えが必要！**
- 2. 事前復興まちづくり模擬訓練とは？**
- 3. 訓練の進め方**

1

【ナレーション例】

1 番目に、〇〇地区で想定される地震や津波の大きさについて説明し、〇〇地区でも地震や津波に対する備えが必要であることを確認します。(また、これまで〇〇地区では、どのような防災の取組をしてきたのか振り返っておきます。)

2 番目に、事前復興まちづくり模擬訓練とはどのようなものなのか、なぜ必要なのか説明します。

3 番目に、本日の訓練の進め方について説明します。

1. 地震・津波への備えが必要！

地区の想定震度：



【揺れによる被害の例】



建物倒壊



道路閉塞

※出典：(財)消防科学総合センターHP、河北新報、内閣府 災害に係る住家の被害認定基準運用指針参考資料

2

【ナレーション例】ハザードマップによると〇〇地区では、震度〇〇が想定されています。揺れで建物が倒壊したり、倒れた建物や電柱、塀などが狭い道路を塞いでしまったりします。道路が塞がると、避難や救助活動、消火活動に影響が出てしまいます。このように、〇〇地区でも地震による被害が想定されるため、備えが必要です。

1. 地震・津波への備えが必要！

〇〇地区の想定震度：6強



【揺れによる被害の例】作成例



建物倒壊

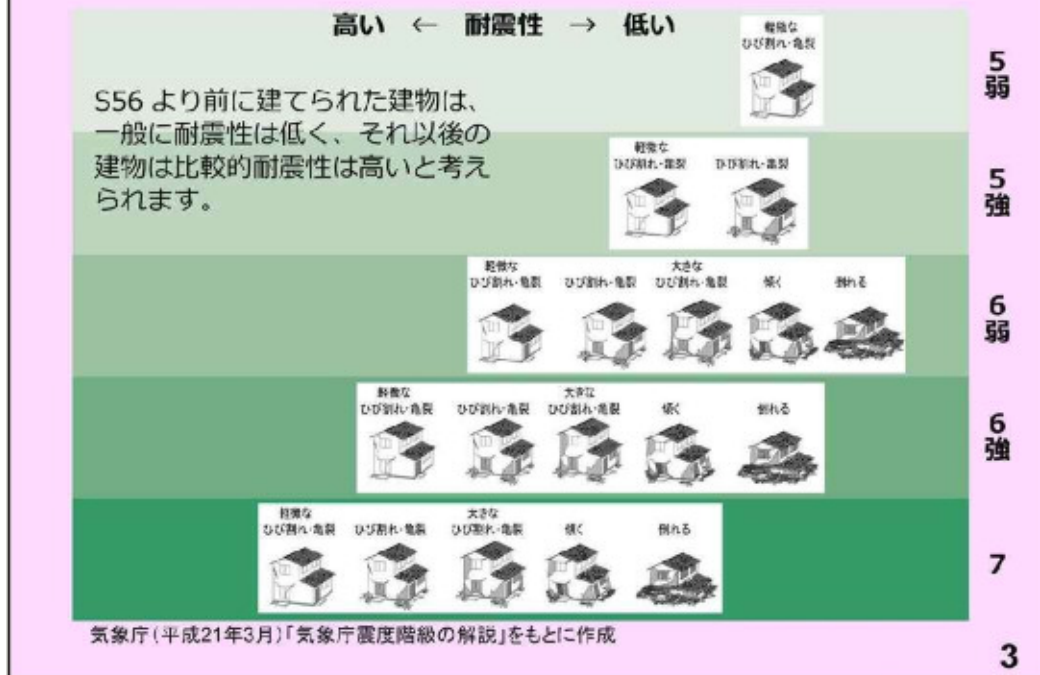


道路閉塞

※出典：(財)消防科学総合センターHP、河北新報、内閣府 災害に係る住家の被害認定基準運用指針参考資料

2

1. 地震・津波への備えが必要！



【ナレーション例】

揺れによる、建物被害の目安です。昭和56年以前に建てられた建物は、一般に耐震性が低い
ため注意が必要です。

1. 地震・津波への備えが必要！

地区の津波浸水： m

地区の津波到達： 分



津波被害

※出典：京都大学「津波による建物被害(速報)」

4

【ナレーション例】(津波被害がない場合はとばしてください)

〇〇地区では、津波によって〇m 浸水することが想定されています。また、地震発生から〇分で津波が到達します。津波は建物や町に甚大な被害をもたらすことがあります。このように、〇〇地区でも地震や津波による被害が想定されるため、備えが必要です。

1. 地震・津波への備えが必要！

〇〇地区の津波浸水： 1.5 m

〇〇地区の津波到達： 60分

作成例

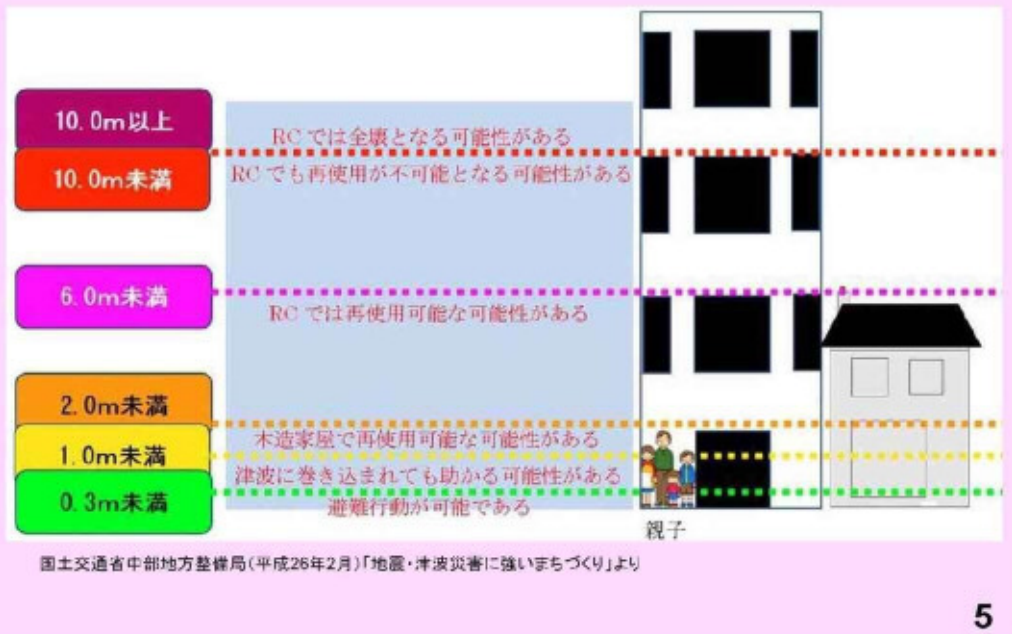


津波被害

※出典：京都大学「津波による建物被害(速報)」

4

1. 地震・津波への備えが必要！



【ナレーション例】

(津波被害がない場合はとばしてください)

津波による被害の目安です。浸水深が1m未満であれば、津波に巻き込まれても助かる可能性があります。2m以上になると、木造家屋の多くは倒壊してしまうと言われています。

1. 地震・津波への備えが必要！

防災・減災に役立つ、これまでの地域活動

活動の内容：

頻 度：

活動の成果：

写真

活動の内容：

頻 度：

活動の成果：

写真

6

【ナレーション例】(防災・減災に役立つ地域活動を行っていない場合はとばしてください)
ここまでに見てきたような地震・津波災害が想定される中で、〇〇地区ではどのような備えを行ってきたのか振り返ります。

この地区では〇〇を年〇回程度行ってきました。この活動により〇〇の効果がありました。

1. 地震・津波への備えが必要！

防災・減災に役立つ、これまでの地域活動

活動の内容：**防災訓練**

頻 度：**年一回**

活動の成果：**避難の円滑化**



作成例

活動の内容：

頻 度：

活動の成果：

写真

6

2. 事前復興まちづくり模擬訓練とは？

事前復興まちづくり模擬訓練とは

「大規模地震による被害を想定した上で、被災後のまちづくりについて考える」訓練

震災直後



復興後



※神戸市パンフレット〈協働と参画のまちづくり〉より

7

【ナレーション例】

本で行う事前復興まちづくり模擬訓練も、地震や津波への備えのひとつです。

事前復興まちづくり模擬訓練とは、自分たちの住むまちについて、大規模地震による被害を想定したりまちの魅力を知った上で、被災してしまった後のまちづくりを考える訓練です。

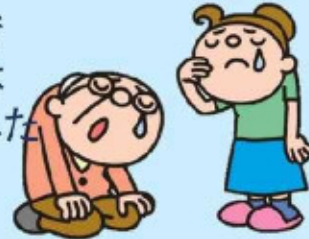
下の写真は、阪神淡路大震災の被災直後と復興後の同じ場所を撮影したものです。

事前復興まちづくり模擬訓練では、想定した被害のもと、復興後の姿を考えます。どうしてこのような訓練が必要なのでしょう。

2. 事前復興まちづくり模擬訓練とは？

阪神・淡路大震災の教訓から・・・

震災で大きな痛手を負った状況では、復興に向けた話し合いや具体的な活動もなかなか進みませんでした。



それでも順調に復興できたのは、震災前にまちづくり活動を積み重ね、その経験を活かして復興に取り組むことができた地区でした。

8

【ナレーション例】

そもそも、事前復興まちづくりの考え方は、阪神・淡路大震災の教訓から得られたものです。阪神淡路大震災の後、大きな痛手を負った状況では、復興に向けた話し合いや具体的な活動もなかなか進みませんでした。

それでも順調に復興した地域は、震災前にまちづくり活動を積み重ね、その延長として復興に取り組むことができた地区でした。

2. 事前復興まちづくり模擬訓練とは？

つまり…

被災前からまちづくりに取り組むことは、被災後の困難を乗り越え、復興を遂げるための助けになるのです。

そこで…

日頃から被災後を見越したまちづくりを行い、いざというときのために準備しておくことが大切



**事前復興まちづくり模擬訓練は、
このような取組の第一歩！**

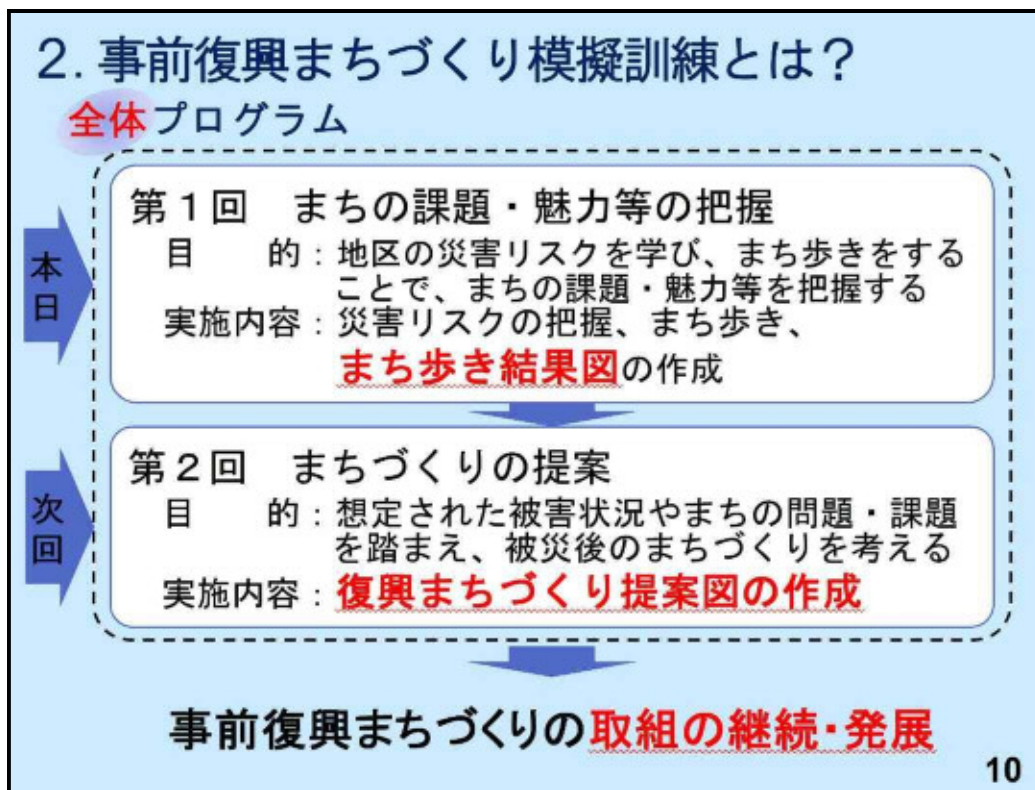
9

【ナレーション例】

つまり、被災前からまちづくりに取り組むことは、被災後の困難を乗り越え、復興を遂げるための助けになるのです。そこで、災害への備えとして日頃から被災することを見越したまちづくりを行ない、いざというときのために準備しておくことが大切なのです。

事前復興まちづくり模擬訓練を実施することで、被災前には、地域のつながりが強化され、まちづくりの意識を高めることができます。また、被災後の復興時には、復興に向けた地域の体制をすぐに整えることができ、地域での話し合いも円滑になります。

このような取組の第一歩として行うのが、「事前復興まちづくり模擬訓練」です。



【ナレーション例】

事前復興まちづくり模擬訓練は、2回（または2日間）に分けて実施します。

今回は、〇〇地区の想定震度や想定津波浸水深さなどの災害リスクを知り、その上で実際にまちを歩いて防災上の問題や課題を探します。まち歩きで発見したまちの課題や魅力は、「まち歩き結果図」という地図を作成し、まとめます。

次回は、大地震による被害を想定した上で、今回把握したまちの問題・課題を踏まえ、仮に被災した場合を想定して被災後のまちづくりを考え、「復興まちづくり提案図」を作成します。

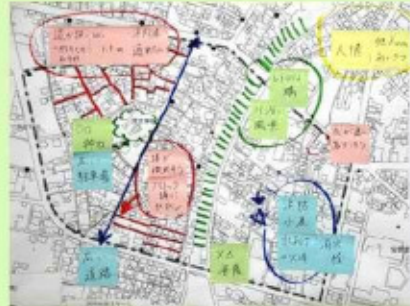
また、訓練を実施した後は、これだけにとどまらず今後もこのような取組を継続・発展させていくことが大切です。

3. 訓練の進め方

①まち歩き



②まち歩き結果の
取りまとめ



③発表 (班ごと)



11

【ナレーション例】

本日の訓練「まち歩き」について詳しく説明します。

全体の流れは、まず、班ごとに実際にまちを歩いて防災上の問題や課題を探します。発見内容は各自メモしておきます。また、リーダーは必要に応じて発見内容をカメラで撮影しておきます。

次に発見した問題や課題を地図にまとめます。

最後に皆さんの前で、見つけた問題や課題を発表します。発表は班ごとに行ってもらいます。

3. 訓練の進め方

①まち歩き

発見事項は、
まち歩き地図にメモします

大地震や津波発生時に危険なところ…



まち歩きで探す
もの(例)



12

【ナレーション例】

まち歩きでは、実際に地震が起きた場合をイメージして次のような所を探してみてください。

1. 大地震や津波が起きた場合に危険な所

例えば、木造家屋が密集している所は倒壊や火災の危険があります。壊れそうな塀や建物があれば、倒れて道を塞いでしまうかもしれません。上から落ちてきそうなものは避難の際に危険です。また、狭い道や行き止まりがあれば、避難や救助・消火活動に支障が出るかもしれません。

3. 訓練の進め方

①まち歩き

まち歩きで探すもの(例)

被災時に役立つところ、役立つもの…

発見事項は、
まち歩き地図にメモします



13

【ナレーション例】

2. 被災時に役立つ所

例えば、人や物を集められる広場があれば一時的な退避や、支援物資を配ったりするために使えます。また、水や食料を確保できる場所、備蓄倉庫、防火水槽なども災害時の役に立ちます。

3. 訓練の進め方

①まち歩き

まち歩きで探すもの(例)

被災後も大切にしたいところ…



発見事項は、
まち歩き地図にメモします

14

【ナレーション例】

3. 被災後も大切にしたいところ

地域の魅力として、社寺や祭りなどの文化、馴染みの街並み、緑地やシンボルツリーなどを探してみましょう。

これらの場所について、お手元のまち歩き地図にメモをしながらまち歩きをしましょう。

なお、お手元にある資料「まち歩き」で詳しく手順が説明されていますので参考にしてください。

3. 訓練の進め方

②まち歩き結果の取りまとめ

次の要領で、一人ずつ、発見事項をふせん紙に記入します。



赤

災害発生時
危険な所



青

被災時に
役立つ所



緑

被災後も大切に
したい所



黄

その他
気づいたこと

15

【ナレーション例】

まち歩きから戻ったら、その結果をまとめていきます。各自、お手元にある、ふせん紙に発見事項を1つずつ記入します。

発見の内容によってふせん紙の色を使い分けます。

災害発生時危険な所は赤いふせん紙に、被災時に役立つ所は青いふせん紙に、被災後も大切にしたい所は緑のふせん紙に、その他気づいたことがあれば黄色のふせん紙にそれぞれ記入してください。

3. 訓練の進め方

②まち歩き結果の取りまとめ

一人ずつ、ふせん紙を地図上の該当箇所に貼ります。

リーダーを中心として、話し合いながら、似た発見をマーカーで囲ったり、発見した位置を地図にマーカーで描き込んだりするなどして整理します。



16

【ナレーション例】

記入したふせん紙は、各自、各テーブルにある大きな地図に貼り付けます。

リーダーを中心として似た発見はマーカーで囲ったり、発見した位置を地図に矢印や星印で書き込んだりして、発見した事項をわかりやすくまとめていきます。

なお、お手元の資料「まち歩き結果の取りまとめ」で詳しく手順が説明されていますので参考にしてください。

話し合いのルール

- 全員が一度は話しましょう
- 人の話は最後まで聞きましょう
- 自分とは違う意見も尊重しましょう
- 考えたことは発言し、記録に残します
- 時間を守りましょう



17

【ナレーション例】

皆さんに気持ちよく訓練を行ってもらうために、ルールを守りましょう。

話し合いは、全員参加できるようにしましょう。1人だけが長くしゃべってしまうと、いろいろな意見を聞く機会がなくなってしまいます。

誰かが話しているときは遮ったり、批判したりせず、自分と違う意見も尊重するようにしましょう。

考えたことは、積極的に発言し、ふせん紙などを書いて記録に残しましょう。

また、時間は守りましょう。

**それでは、
事前復興まちづくり模擬訓練を
はじめましょう！！**

18

【ナレーション例】

それでは、各班のリーダーを中心に訓練を始めましょう！

事前復興まちづくり模擬訓練
**訓練 2 : 復興まちづくり提案
概要説明**

平成 年 月 日(曜日) 時～
場所：

【ナレーション例】

これから事前復興まちづくり模擬訓練 訓練 2 : 復興まちづくり提案の概要説明を行ないます。

事前復興まちづくり模擬訓練
**訓練 2 : 復興まちづくり提案
作成例
概要説明**

平成〇〇年 〇月 〇日(〇曜日) 〇時～
場所：〇〇公民館

目 次

- 1.事前復興まちづくり模擬訓練とは？
(再確認)
- 2.前回の振り返り
- 3.訓練の進め方
- 4.復興まちづくりの方法

1

【ナレーション例】

- 1 番目に、事前復興まちづくり模擬訓練とは何か、再確認しましょう。
- 2 番目に、前回の訓練を振り返りましょう。
- 3 番目に、本日の訓練の進め方を確認しましょう。
- 4 番目に、復興まちづくりと言っても、よくわからないかと思いますので具体例を挙げて説明します。

1. 事前復興まちづくり模擬訓練とは？

事前復興まちづくり模擬訓練とは

「**大規模地震による被害を想定した上で、被災後のまちづくりについて考える**」訓練

訓練をきっかけに、取組を続けていくとどんな効果があるのかな？



- もし被災しても、復興を円滑に進められるようになる。
- 被害を減らすために今からできることを考え、少しでも実行できます。

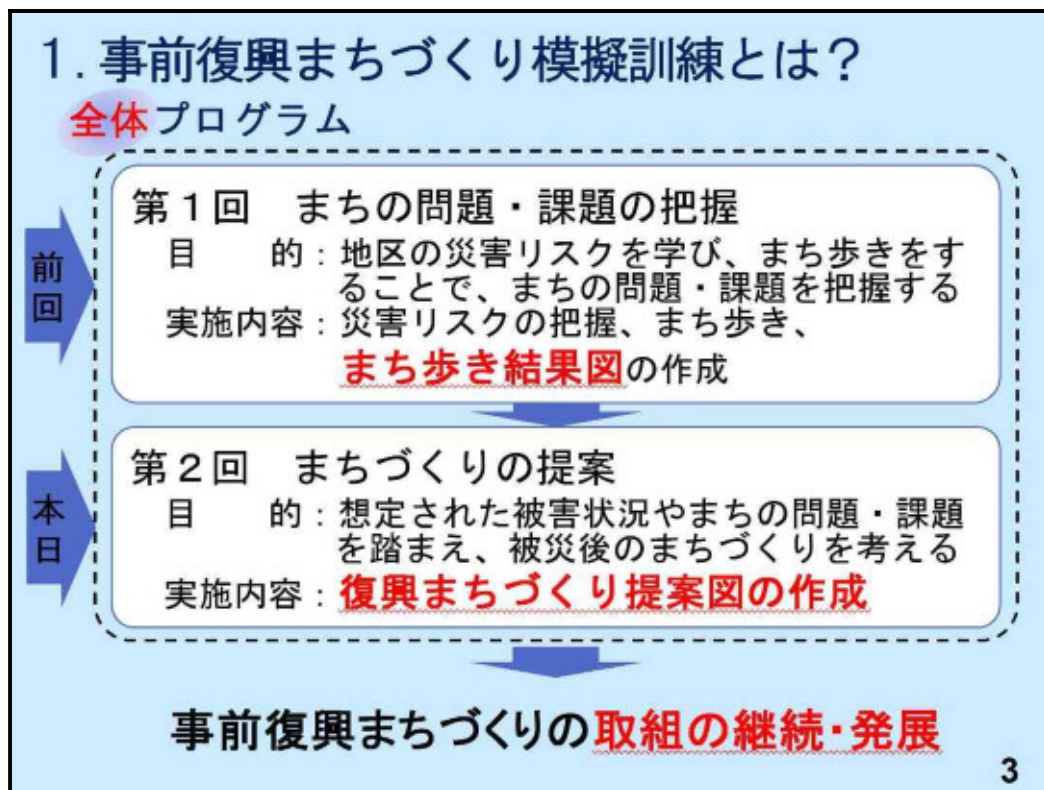
2

【ナレーション例】

事前復興まちづくり模擬訓練とは、「自分たちの住むまちについて、大規模地震による被害を想定したりまちの魅力を知った上で、被災してしまった後のまちづくりを考える」訓練です。

訓練をきっかけに、取組を続けていくと、

もし被災した場合でも、日頃のまちづくりの延長として円滑に復興を進められるようになり、被害を減らすために今からできることを考え、少しでも実行できたりします。



【ナレーション例】

事前復興まちづくり模擬訓練は、2回（または2日間）に分けて実施します。

前回は、〇〇地区の想定震度や想定津波浸水深さなどの災害リスクを知り、その上で実際にまちを歩いて防災上の問題や課題を探しました。

本日は、大地震による被害を想定した上で、今回把握したまちの問題・課題を踏まえ、仮に被災した場合を想定して被災後のまちづくりを考え、「復興まちづくり提案図」を作成します。

また、訓練を実施した後は、これだけにとどまらず今後もこのような取組を継続・発展させていくことが大切です。

2. 前回の振り返り

まちの課題や良いところを再発見することができました。



主な発見

4

【ナレーション例】前回の訓練では、実際にまちを歩き、まちの課題や良い所を地図上にまとめました。主に、災害発生時に危険な所として〇〇、被災時に役立つ所として〇〇、被災後も大切にしたい所として〇〇などが発見、再確認されました。また、話し合いを通して地域にとってこれから何をしなければならないのか、考えるきっかけになったと思います。

2. 前回の振り返り

まちの課題や良いところを再発見することができました。



主な発見

作成例

- 危険な所：狭い道が多い、古い木造家屋が多い
- 役立つ所：防災倉庫がある、消火栓がある
- 地域の魅力：〇〇神社、〇〇通りの街並み

4

3. 訓練の進め方

【想定したまちの被害状況】

地震により、地区の  %の
建物が倒壊

津波により、地区の  %の
建物が倒壊

5

【ナレーション例】被災後のまちづくりを考えるにあたり、被害の状況を仮に想定します。地震によって地区で〇%の、津波によって地区で〇%の建物が倒壊した状況をイメージしてください。

今回の訓練では、このような状況からどのように復興するか、提案します。

3. 訓練の進め方

【想定したまちの被害状況】

地震により、地区の **30%** の
建物が倒壊 **作成例**

津波により、地区の **10%** の
建物が倒壊

5



【ナレーション例】

復興まちづくり提案について詳しく説明します。

まず、各班でテーブルにある発見・テーマ整理表に従い、被災後のまちづくりについて提案を行います。

次に、提案の内容を各班で地図にまとめていきます。

最後に皆さんの前で、班の提案を発表します。

3. 訓練の進め方

①復興まちづくりの提案

特に重要だと思ふ発見を、
討論を通していくつか選び
ます。

重要な発見を踏まえ、「想定
する被害状況」から、
どのようなまちに復興したい
か皆でテーマを決めます。

テーマを実現するための方
策を提案し、各自ふせん紙
に記入します。

発見・テーマ整理表			
第 班			
①まちづくり経緯から、皆さんが特に重要だと思ふ発見をいくつか選び、表紙に記入します。			
②表紙に記入したのが、今のまちの主な「課題」と「よい所」です。これらを読み、自由に発見した発見。どのようなまちとして復興したいか、皆さんで決め、短文で表紙に記入します。			
表紙：特に重要だと思ふ、まちづくりの発見			
災害発生時 島嶼型市街地	被災時に復旧する	被災後も 大切にしたい所	その他
表紙：復興まちづくりのテーマ			

7

【ナレーション例】

発見・テーマ整理表では、まず地域にとって特に重要だと思ふ発見を、討論を通していくつか選びます。

次に、重要な発見を踏まえ、「想定したまちの被害状況（2枚前のスライド）」からどのようなまちに復興したいか、皆でテーマを決めます。

例えば、「地域の魅力は残しながらも、同じ被害を二度と受けない災害に強いまちにする」といった具合です。

次に、テーマを実現するために、具体的にどうしたら良いか各自提案し、ふせん紙に記入します。

3. 訓練の進め方

①復興まちづくりの提案

ふせん紙には、提案の内容に応じて、次の要領で記入します。

赤	青	緑	黄
危険な所の改善策・方針	被災時に役立つ所の活用策	被災後も大切にしたい所の活用策	その他
同じ被害が繰り返されないように、復興の際に危険な所をどのように解消するか、方針や方策を提案しましょう。	被災直後～復興にかけて、役立ちそうなものや場所を見つけ、どのように活用するか提案しましょう。	被災後の混乱で、地域の価値あるものが失われるかもしれません。事前に保全・活用策を提案しておきましょう。	地域の繋がり（コミュニティ）を大切に、既存の組織を有効に活用しましょう。

8

【ナレーション例】

提案の内容に応じて、ふせん紙の色を使い分けます。

危険な所の改善策は赤に、被災時に役立つ所の活用策は青に、被災後も大切にしたい所の活用策は緑に、その他の提案は黄色に記入します。

危険な所の改善策・方針としては、同じ被害が繰り返されないように、復興の際に危険な所をどのように解消するか、方針や方策を提案します。

被災時に役立つ所の活用策としては、被災直後から復興期にかけて、役立ちそうなものや場所について、どのように活用するか提案します。

被災後も大切にしたい所の活用策としては、被災後の混乱で地域の価値あるものが失われないう、事前に保全・活用策を提案します。

その他としては、地域のつながりや組織に関する提案などが考えられます。

なお、提案に際しては、次のような視点に留意しながら進めましょう。

- ①ハード対策：道路を広げたりブロック塀を撤去したり、建物の耐震化を行うなど。
- ②ソフト対策：避難訓練や防災マップづくり、既存組織の取組の強化など。

3. 訓練の進め方

②提案内容を地図に整理

一人ずつ、ふせん紙を地図上の該当箇所に貼ります。



リーダーを中心として、話し合いながら、似た意見をマーカーで囲ったり、提案の示す位置を地図にマーカーで描き込んだりするなどし、提案図としてまとめていきます。



9

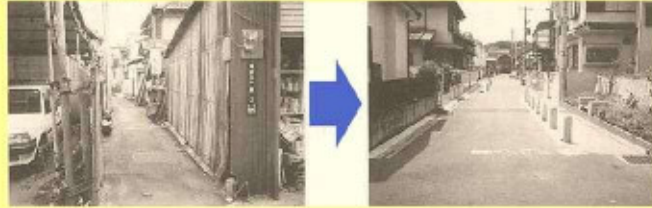
【ナレーション例】

各自記入したふせん紙を、各テーブルにある地図上の該当箇所に貼り、整理していきます。リーダーを中心として似た提案はマーカーで囲ったり、提案の位置を地図に矢印や星印で書き込んだりして、発見した事項をわかりやすくまとめていきます。なお、お手元の資料「復興まちづくり提案」で詳しく手順が説明されていますので参考にしてください。

4. 復興まちづくりの方法

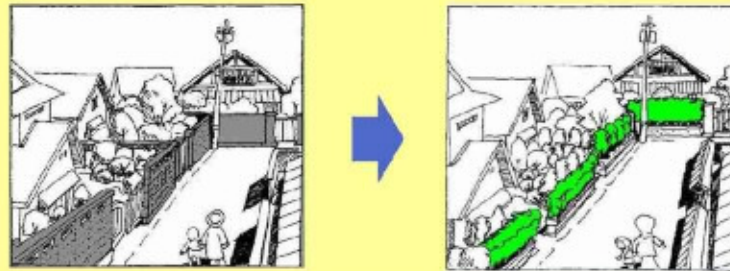
●狭い道路の拡幅や避難路の計画

(初期避難、救急、
消防活動)



●ブロックの撤去

(倒れると危険なブロック塀の解消)



10

【ナレーション例】

ここまで、本日の流れを見てきましたが、いきなり復興まちづくりと言われても、ピンと来ないかもしれません。そこで少し事例を紹介します。

狭い道路は広げたり、避難に必要な道路を計画したりします。

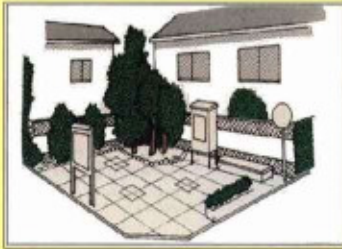
倒れると危険なブロック塀などは取ったり、生け垣にしたりすることもあります。

4. 復興まちづくりの方法

●まちかど広場や身近な公園等の確保

(空地の活用や広場や公園等を確保することで、地域の防災活動にも有効)

まちかど広場のイメージ



身近な公園のイメージ



11

【ナレーション例】

また、まちのそこここに広場や公園を設け、防災活動の拠点としたり、災害時の一時退避場所を確保します。

4. 復興まちづくりの方法

●誘導案内板や災害時に利用できる設備等も必要

避難誘導案内板



かまどベンチ



防災倉庫



耐震性貯水槽



12

【ナレーション例】また、災害が起きる前からできることですが、避難所への誘導案内板を設置したり、災害時に利用できる防災倉庫、貯水槽などの設備を設けます。

4. 復興まちづくりの方法

●自宅での地震など災害に対する備えも必要

自宅の耐震診断



自宅の耐震化



家具の固定



雨水貯留タンク



13

【ナレーション例】

各自、災害に備えておくことも大切です。

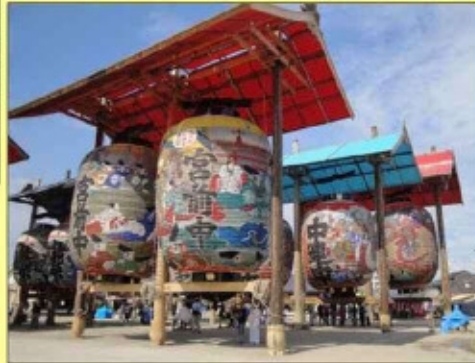
4. 復興まちづくりの方法

- 地域で大切なものを守り、残していくことも重要

神社



まつり



14

【ナレーション例】

新しくつくるだけでなく、地域で大切なものは守り、後世へ残していくことも重要です。

話し合いのルール

- 全員が一度は話しましょう
- 人の話は最後まで聞きましょう
- 自分とは違う意見も尊重しましょう
- 考えたことは発言し、記録に残します
- 時間を守りましょう



15

【ナレーション例】

皆さんに気持ちよく訓練を行ってもらうために、ルールを守りましょう。

話し合いは、全員参加できるようにしましょう。1人だけが長くしゃべってしまうと、いろいろな意見を聞く機会がなくなってしまいます。

誰かが話しているときは遮ったり、批判したりせず、自分と違う意見も尊重するようにしましょう。

考えたことは、積極的に発言し、ふせん紙などに書いて記録に残しましょう。

また、時間は守りましょう。

**それでは、
事前復興まちづくり模擬訓練を
はじめましょう！！**

16

【ナレーション例】

それでは、各班のリーダーを中心に訓練を始めましょう！

(2) 地元回覧文 (参考)

まちづくりかわら版

●●市 ●●地区

事前復興まちづくり模擬訓練の報告

平成●●年
●月発行

「事前復興まちづくり」は、自分たちの住むまちの災害リスクを知って、あらかじめ被災後のまちづくりを考える取組です。

東日本大震災を受けて、南海トラフ巨大地震など、いつ起こるか分からない大規模災害に備えた取組を、日頃から進めることが大切になってきています。事前復興まちづくり模擬訓練とは、地域の皆さんと行政が協働し、まちの危険性（災害リスク）を知って、震災が起こる前にまちが被災した場合を想定して、震災後のまちづくりを考える取組です。

この取組は、住民の方々がまちづくりを考える“きっかけ”になる取組であり、円滑な復興に寄与するとともに、災害への備えが進むものと考えています。

地震・津波ハザードマップ



「事前復興まちづくり模擬訓練」を●●地区で実施しました！

●●地区は、大提灯祭りで有名な●●神社など古くからの風情が残る地区です。

一方、防災の面で見ると、海が近く津波の心配があることや、古くからの木造建物が多く残り、地震で崩れる危険性があることなどが課題になっています。

多くの住民の皆さんに参加頂き、2日間のカリキュラムで訓練を実施しました。

■第1回

日時：平成●●年●●月●●日（●） 午後●時～●●時

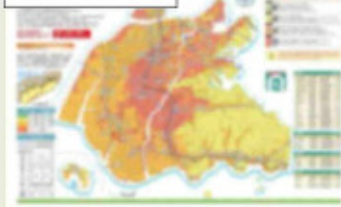
内容：まちを歩いて、災害時に危険なところやまちの魅力を発見し、「まち歩き結果図」としてまとめました。

■第2回

日時：平成●●年●●月●●日（●） 午前●時～●●時

内容：第1回の訓練をもとに復興まちづくりのテーマを設定し、被災を想定して復興のまちづくりについて話し合い、「復興まちづくり提案図」を作成しました。

揺れやすさマップ



会場：●●市●●町公民館

参加者：地域住民の方々 28名

●●市職員・●●県職員・コンサルタント

事前復興まちづくり模擬訓練 対象地区
(●●区及び●●区の一部)



「まち歩き結果図」の主な内容

- 幅が狭い道路、ひびが入って危険なブロック塀、管理されずに倒壊しそうな古い空家の増加など、災害時の避難や緊急車両の進入の妨げになる箇所が多いことが分かった。
- 津波の遡上により水路があふれる恐れ、蓋がなく危険な箇所があることなど、普段感じていなかった恐れも発見した。
- ●●神社、●●寺、地藏菩薩、水路の風景、●●橋の飾りなど、まちの魅力を再確認した。
- 神社横の道路、空地、歩道橋など、避難に役立つ場所も見つかった。

「復興まちづくり提案図」の主な内容

- 避難時に有効な道路の整備、広い道路につながる迂回路^{まわい}の確保
- ブロック塀を減らす
- 神社仏間の活用（平時は憩いの場、防火活動の場。災害時には一時避難所、消火器等の設置所、災害廃棄物置き場などの防災拠点として使えるのでは）
- 水路の活用（平時は魅力的な水辺空間、災害時には消火活動のための水源などとして）
- ブロック塀の生け垣化などのルールづくり、空地・空家の調査と活用方法の検討が必要
- 地域コミュニティの活性化（イベント、隣近所^{となりに}の住人把握、高齢者などの援助体制の検討など）

今後の取組について

「事前復興まちづくり」の取組は、いつおこるかわからない大震災に備えて継続して実施し、できることは今から取組んでおくことが重要です。今回の模擬訓練をきっかけに、この結果をより多くの住民の方々と共有したり、まちづくりの話し合いを深めたり、今からできる行動に繋げていくことで、地域の皆さんの意識が高まり、よりよいまちづくりに発展していくことが望まれます。

また、●●地区の皆さんで実施したこの訓練結果を紹介して、他の地域でも実施されるように広めていきたいと思っています。

■発行・問い合わせ先：●●市●●部●●課（XXXX）XX-XXXX

愛知県震災復興都市計画検討会議の経緯

- ・平成 23 年 10 月 14 日 震災復興都市計画検討会議の設置
- ・平成 23 年 10 月 14 日 震災復興都市計画検討会議（第 1 回）
- ・平成 23 年 10 月 21 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 1 回）
- ・平成 23 年 11 月 25 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 2 回）
- ・平成 23 年 12 月 20 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 3 回）
- ・平成 24 年 1 月 19 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 4 回）
- ・平成 24 年 1 月 25 日 震災復興都市計画検討会議（第 2 回）
- ・平成 24 年 2 月 1 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 5 回）
- ・平成 24 年 2 月 13 日～3 月 9 日 意見照会(市町村, 都市計画関係課, 建設事務所)
- ・平成 24 年 3 月 6 日 市町村及び各建設事務所への説明会の開催
- ・平成 24 年 3 月 22 日 震災復興都市計画検討会議（第 3 回）
- ・平成 24 年 4 月 愛知県震災復興都市計画の手引き（手続き編）策定
- ・平成 24 年 6 月 4 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 6 回）
- ・平成 24 年 7 月 13 日 震災復興都市計画検討会議（第 4 回）
- ・平成 24 年 9 月 10 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 7 回）
- ・平成 24 年 9 月 18 日 震災復興都市計画検討会議ケーススタディ実施部会（第 1 回）
- ・平成 24 年 10 月 10 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 8 回）
- ・平成 24 年 10 月 17 日 震災復興都市計画検討会議ケーススタディ実施部会（第 2 回）
- ・平成 24 年 11 月 7 日 震災復興都市計画検討会議（第 5 回）
- ・平成 24 年 11 月 20 日 震災復興都市計画検討会議ケーススタディ実施部会（第 3 回）
- ・平成 24 年 12 月 13 日 震災復興都市計画検討会議ケーススタディ実施部会（第 4 回）
- ・平成 25 年 1 月 23 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 9 回）
- ・平成 25 年 2 月 1 日～2 月 12 日 意見照会(都市計画関係課)
- ・平成 25 年 2 月 15 日 震災復興都市計画検討会議（第 6 回）
- ・平成 25 年 3 月 愛知県震災復興都市計画の手引き（計画編）策定
- ・平成 25 年 6 月 24 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 10 回）
- ・平成 25 年 7 月 5 日 震災復興都市計画検討会議（第 7 回）
- ・平成 25 年 10 月 24 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 11 回）
- ・平成 26 年 2 月 6 日 震災復興都市計画検討会議ワーキンググループ（第 12 回）
- ・平成 26 年 3 月 5 日 震災復興都市計画検討会議（第 8 回）
- ・平成 26 年 3 月 事前復興の取組に関するガイドライン(案)策定

震災復興都市計画検討会議	ワーキンググループ
愛知県建設部技監（座長）	
建設企画課長	建設企画課 企画第一G
都市計画課長	都市計画課 街路・都市防災G （リーダー）
都市整備課長	都市整備課 市街地整備G
住宅計画課長	住宅計画課 市街地整備G
公営住宅課長	公営住宅課 計画・指導G
建築指導課長	建築指導課 建築指導G
	〃 開発G

事前復興の取組に関するガイドライン (案)

平成 26 (2014) 年 3 月 (平成 31 (2019) 年 3 月一部改訂)

編 著 愛知県震災復興都市計画検討会議
愛知県建設部技監 (座長)
建設企画課長
都市計画課長
都市整備課長
住宅計画課長
公営住宅課長
建築指導課長

(事務局 愛知県建設部都市計画課 街路・都市防災グループ)
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1-2
電話052-954-6517 (ダイヤルイン)